

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



和清山香 會社 所發行  
 市田上野長 所印刷  
 町原市田上野長 所印刷

### 躍進毛織物に就て

藤井爲五郎

躍進又躍進をつけてある毛織物の輸出は、昭和八年輸入より断然輸出に轉じ歐米を壓倒し日本品進出恐慌時代を現出せしめ、先進國をして日本品の市場侵入防止の對策を練る情勢に致らしめつゝあるが、先進の綿布が人絹織物と呼び更に毛織物を誘導して市場への開拓は品質優良、價格の低廉、爲替安の波に乗る邦品は何等の方策もなく最近では本邦にても全國毛織物輸出組合の結成を見んとして居り益々前途洋々たるものがある。

最近の毛織物の全國輸出入統計は第一表の如く輸入は漸次減少し唯英國より的高級品等に限られ、輸出は活潑な狀況を示してゐる。

第一表

年次	輸入	輸出
昭和六年	101,100,000	1,860,000
全 七年	101,831	7,336
全 八年	73,336	5,336
全 九年	53,336	5,336
昭和六年	101,100,000	1,860,000
全 七年	101,831	7,336
全 八年	73,336	5,336
全 九年	53,336	5,336

我國の毛織物主産地たる愛知縣北部は全國の約六割を占め全國唯一の毛織物官營検査を行ひ、品質向上の指導に努力し

つゝある。其の概況を示せば第二表の通りである。

第二表

品名	生産高(米)
カーナ	1,900,000
細綿カーナ	1,900,000
絞類	1,900,000
スコッチ類	1,900,000
純毛クレベネット	1,900,000
綿入クレベネット	1,900,000
純毛ボーラー	1,900,000
交織ボーラー	1,900,000
平織地	1,900,000
ドスキン	1,900,000
フランノ及ネル	1,900,000
薄地メルトン	1,900,000
厚地メルトン	1,900,000
ヘル服地	1,900,000
其他	1,900,000
其他雜織物二巾コイル	1,900,000
合計	1,900,000

第二表の数字は内地輸出入合算にして、その内輸出高を示せば第三表の如く度方面向薄手、色物カーナ首位を占め次に同じく薄手、色物變紋織物カーナにして年々その高上昇しつゝあるは喜ばしき

次第である。

第三表

品名	昭和八年度	昭和九年	全%
カーナ	1,900,000	1,900,000	100
細綿カーナ	1,900,000	1,900,000	100
絞類	1,900,000	1,900,000	100
スコッチ類	1,900,000	1,900,000	100
純毛クレベネット	1,900,000	1,900,000	100
綿入クレベネット	1,900,000	1,900,000	100
純毛ボーラー	1,900,000	1,900,000	100
交織ボーラー	1,900,000	1,900,000	100
平織地	1,900,000	1,900,000	100
ドスキン	1,900,000	1,900,000	100
フランノ及ネル	1,900,000	1,900,000	100
薄地メルトン	1,900,000	1,900,000	100
厚地メルトン	1,900,000	1,900,000	100
ヘル服地	1,900,000	1,900,000	100
其他	1,900,000	1,900,000	100
其他雜織物二巾コイル	1,900,000	1,900,000	100
合計	1,900,000	1,900,000	100

第三表の輸出品を仕向地別に分類すれば第四表の如し。

第四表

國名	割合
英國印度	40.6%
滿洲	23.5%
支那	11.5%
朝鮮	6.8%
東アフリカ	6.5%
蘭領印度	2.9%

毛織物の躍進は遠くアフリカに及び印度西アジア等の乾燥地帯にては、濕氣を保有せしめ、又顔面を布にて覆ひ砂塵を防ぐに毛織物は最も適し、その點に於ては人絹布は不適にして、従つて南洋諸島方面に將來性を有するものと見る。彼等の生活に於て文明の餘榮を負ふ程益々毛織物の必要を感じる事であらう故にその前途も見るべきものがある。又滿

山本三六郎著  
 化學純絹絲の工業的完成  
 蠶絲科學研究會編  
 伊太利蠶絲業の衰退原因と其の現況  
 菅原勇治著  
 蠶絲業法規要論  
 改正  
 ¥2.30 ¥1.50 ¥0.30  
 市田上野長  
 會究研學科絲蠶 所行發  
 [振替長野6413番]

現代乾繭機界ノ王座  
 大和式自動輸送乾繭機

二五九六年代表型

【各種型錄贈呈】

製作發賣元  
 株式會社  
 大和三光商會  
 東京京橋區京橋三丁目二番地  
 電話京橋(56)五三二〇番

營業課目  
 特許大和式自動輸送乾繭機  
 特許大和式自動絹網乾燥機  
 特許帶川三光式乾燥機  
 特許やまほ式ホーロー乾燥機  
 特許サンケー式濾過淨水裝置  
 特許サンケー式廢湯吸熱器  
 特許サンケー式高壓ポンプ  
 特許サンケー式トランプ

(完)

各國生絲検査

機關一覽

- 1、アメリカ 米國生絲検査會社(ニューヨーク)私立
- 2、フランス アミアン生絲検査所
- カレール
- コードリ
- リヨン
- マルセイユ
- ルーベ
- パリ
- サンテチエヌ
- ツールコアン
- エルブーフ
- フルミエ
- マザメ
- ムルハウス
- ライム
- ロアンヌ
- 3、イタリ 生絲検査所
- ミラノ
- コモ
- トリノ
- トレヴィゾ
- ピエツラ
- ヴェリセツリ
- 4、スイス パーゼル生絲検査所
- チニリツヒ
- 5、ドイツ エルベルフェルト生絲検査所
- 6、スペイン タッラーサ生絲検査所
- サバーデル
- 7、イギリス ブラッドフォード生絲検査所
- (○印は主要なるものを示す)
- 以上各國の生絲検査機關は殆んど公立で、各國絹業協會及び各地商業會議所に屬して居る。
- 8、支那 上海生絲検査所
- 廣東

横濱生絲検査所  
神戸  
府立  
京都生絲検査所  
縣立  
福井生絲検査所(支所五ヶ所)  
石川  
外に岐阜縣立工業試験場内に生絲鑑定所あり。

以上の内横濱神戸兩検査所以外の地方生絲検査所の行ふ業務は、地方生絲検査所規程によりて定められてある。(略)

以上の調査は横濱生絲検査所調査課の材料より調査せるもので、昭和九年年度現在による。(一〇、九、三)

思出のまゝに新博士 西山さん

淺間高原にて 西澤良一

春風颯々、學園の春は置かれてある。此處は比較近く、洛東の一角に聳ゆる、近代建築の輝を凝らしたモダンなビルディングがある。土地の言ふ農大、京都帝大農學部が則ち之である。新緑に埋れた、モダンな校舎内に軽い靴音の反響を響かせながら遺傳研究室の重いドアをノックしたのは四月の或日の午後である。(始めてお目にかゝる先輩西山氏の面影を多分に空想しながら)四月晴れの柔かな春光が新緑に照り映じて窓越しに部屋一杯に流込んでゐた。部厚な原書、精巧な顕微鏡、珍しい種々な研究サンプルに満ちた此の象牙の塔の主こそ我等が大先輩西山さんなのだ。溫和な笑顔で、「どうでした?」

以心傳心、十數年來の知己のやうな親しさで一面の顔もない後輩の安否を、先づ第一に氣遣つて下さるには何んとなく目頭が熱くなつた。自信を以つて之に應へるには餘りに結果が香しくなかつた。「單語に面喰ひまして?」

腹の底から嘆聲が唇をついて出るか出な

子を拾ふ

ものゝ様な、先輩西山氏の前途を祝福しつつ。

彌々廿五周年のお祝ひも近よつた。廿五周年と云へば本校初期卒業生の第二世が中學を飛び出して所謂『爰を負ふて』と云ふやつをどこかの高等、専門學校にやらす時代である。つまり我々二十年前の姿を第二世に見出す時期となつた。然し時代相は致方無いもので彼等の相違は凡ゆる方面に於てすばらしい距離がある。従つて拙く青雲の夢も食ふ空想も似てもつかないものであらう。少し凝つた文句を云ふと忽ち親父は古いとかたづけられて了ふ。親父から見ると此の新しが第二世の前途も甚だ心もとない氣もするが……と云ふて第一世も大體お祭りが終つたから矢張り此の第二世に重點を置くより方法がないと云ふものである。

此の頃各地を旅行した。先輩の家に寄つて見ると、第二世の有爲な青年がホツ／＼出て來た。黙つて置くももつたいながら祝賀會の序曲として本年度の此のホームランヒッターを報告して見よう。

鶴田定平君(蠶一)の長男は東京高等師範學校へ非常な好成绩で入学された。大學を目指して折角勉強中である。

上原清夫君(蠶一)の長男は名古屋の第八高等學校へ入学された。母校の紡織科を受験されたが之も優位に合格された。結局八高を選ばれたわけである。

岩本市郎君(蠶一)のオンリーチャイルドは松山高等學校に入学された。然も庭球の選手として断然松校に重きをなして居らる。中學時代からのスポーツマンで庭球の主將をしつ、松校を合格されたのだから頭の程度を知ることが出来る。

同窓中の舊い所を御照會すると湯川秀夫君(蠶一)の御消息は已に横濱高等商業貿易科を卒業され目下米國のさる大學に勉學中とある。飯島正胤君(蠶二)の御消息は昭和醫學專門學校を本年卒業され推しも推されぬお醫者さんである。故佐藤久太郎君(蠶三)の御消息は已に高等工業を卒業し就職はおるか堂々たるお父さんとなられて居る。野崎清君(蠶四)の御消息は早稻田大學在學中である。養蠶科だけならたてたが製絲科の先輩にも勿論澤山あるだらうが自分には知らない。又養蠶科の中にもつとあるかも知れない何れにしてもお目出度い限りである。

然し恐らく現今卒業する卒業生が五十周年のお祝ひを迎へたとしても其第二世が必ずしも高等學校入学年齢に到達しないかも知れない。昔と今と結婚平均年齢を調査して見ると之は餘程差があるやうである。舊時代では卒業後二三年もすると結婚の可能性が出來て來たものである。然し現在のやうなせち辛い世の中では二三年はおるかいつかつプライングになれるか見當がたない。又舊時は入学の平均年齢も高かつた。先生より高齡だと云ふ人も澤山あつた。日露戦争生き残りも猛者で親子四人暮して得の生いた生徒さん等も交つてゐた之が先生と同窓先輩の子供さん達が高校入学年齢でカチ合ふ所以であらう。何れにしても之からドン／＼ヒッターが出て欲しいものである。

(Y R 生)

茨城斷片

大空 ひろし

〇訛り、踊り、誇り

水戸に来てから一年餘り、耳障りな尻上りのマズイ、アクセントが次第に浸みこんでしまつた。とても上品とは思はれないが郷に入れば郷に従へか。單純な子供は其の順化も至つて速く、此の春赴任したM君の子供もそうだと云ふてゐたが二三日他人の子供と遊んで来れば全く土地子になつて遊ぶのに何んの不自由もないと、子供には言葉以外相通する何物かあるのか？

會て九大江崎博士のロッテ夫人が歐洲から日本への途中長いシベリヤの車中に退屈に苦しんで居たのに子供は見ず知らずのロシア人の子供と何時も樂しげに遊び戯れてゐたと話された事がある。子供の世界では何處に迷ひ込んで困らぬらしい。羨むべし童心か。

然し大人はそう簡単に地方色は眞似難い。まして地方の民謡とか村芝居に於てをや。昨今灯ともし頃ともなれば市内近在の社の森の静間を衝いて高く低く、或は早く或は緩かな太鼓の音が景氣よく響いて来る。之は神前に供養する地方色豊かな豊年踊である。此の踊の唄等蛙の鳴聲程にも解し兼ねる。それでも手拍子だけは簡單だからテンポの緩い時はよく解るだが太鼓が早く打ち始められ急テンポになると手と言はずと云はず體中をアル／＼振はして全く中風症やテンカン病人の合同戯の様に見える。それで一名中風踊りと通稱されてゐる。

常陸、下總を合せた現茨城は自然の天恵にも豊にして海岸線の長い事(黒潮の加減で現在は漁は少いが)砂金の多い東北茨城此處に鎮座する今有名な日立鎮山並其の製作所、山頂に聳へ立つ大煙突は遙か關八州を睥睨し空翔る人の標識として親まれる。此の煙突の煤煙より回収される金の數量年何万圓と稱せらる。日本

の護り鳥人の住むてふ霞ヶ浦と筑波山を抱いて遠く擴がる沃野は肥料よりも土を時かねば稲が出来ぬと云ふ豊かさ。

浦を渡れば武の神鹿島宮は日本の護り神此の社と詩情、旅情に豊かなる潮來出島を結ぶ一線以南は有名な鹿島原蠶飼育分場地帯、恩師川瀬博士が其地として太鼓判を押して以來利根川と黒潮に挟まれた此地一帯は名實共に日本一。桃花亂れて南風和らぐ頃ともなれば若松に點綴する白堊のほとりより蠶飼ひの唄聲が潮風に揺られ流れ来る觸感がよく筆舌に盡し得ず。

近年の茨城は栗の生産聞へ高けれども梅樹は一朝有事の用意にもと水戸藩公の種梅記を草せられ御愛樹御勵行以來夙に多くして、花は朴香清澤にして誠に雅趣に富む。果となりては藩下百万の民を救ふと。非常時の今日又想起すべき哉。春水戸の公園を訪へば樹種又數十に及ばんか、白赤黄八重一重大小又様々立春ともなれば農家に梅の香らざるなく、穀倉より劣る家に住めど生計に苦む民もなし。農倉の聲盛んなる此の頃此の穀倉は又尊き文獻の一つに非ずや。

〇筑波に集ふ

昨年の秋恰度其の頃連日の雨で腐り切つてゐた或る日の午後の郵便屋が千曲支會總會を筑波山で開くとの通知を齎らした。餘りにも有名なそしてまだ少しも知らない山の中で、知らないなつかしい同窓に逢ふ事の樂しき其の當日まで空模様ばかり氣になつた自分であつた。半日の仕事を終へて土浦へ、一緒になつた水戸勢五人此處から二〇〇年型の見すばらしいバス(それでも満員)に搭られ乍らホロ酔の運ちゃんに運ばれて山へ、釣瓶落する秋の日は早や秩父連山に落込んでぼんやりした秋の中空をまだ雨雲が右往左往する。それでも遙か淺間頂上夕焼が強く明確に映つた頃は無暗と内心に湧立つ嬉しき、樂しきバスのスプリングと共に

こみ上げてならなかつた。夕もやの濃くなつた山腹に我等の宿の灯が錦繪の様におぼろに見へる。

山麓で乗換へて今度はモダンな三十三年型バス、先着のセントルマンで既にパイ、三〇度の暗い山腹を心地よく登つて行く。やがて中腹の筑波町の玄關に辿り着いたとたん、車は蠶絲課のK君に引止められた。降りやうと立上り乍ら聴へた話二三、皆の顔が俄然緊張……

先日から出張してゐたK君宿を間違へて張込んでゐた。而も其夜の饗宴の用意迄させて、話はどう落付いた？……船後技師を降ろして車は再び動いて本會場へ。K君こそ七轉八回九死の苦杯を一時に喫した此の會のフライングプレイヤー！

やがて車から降りて見ると居るは居るは暗い中で今迄知れずにあつた會長以下の結城軍。と其の中から『ヨウ僕が解るか？』とニヤリ、確かに訛がある、相當の年輩の紳士、よく熟視、確かに似てゐる、だがきつぱり見當が付かぬ、默想二三十秒……私は此の間がとて長い、時間には思はれた。縣内にある同窓、そして急ピツチで十年の思出を昔に辿らねばならなかつたのだから……

『アー、佐瀬サンですね！』  
『ソウだよ、ハ、』  
ホ！全く意外だ。私の知るS氏は千葉にある。人間は静止の物體でない。結城に來てゐるのでやつて來たと云ふ。日中なら兎も角、暗の淡灯の下に全く不意に現れた十年相見へぬ知人、然も豫期せぬ此の會に來て居られやうとは、瞬間度を失はざるを得ないではないか。あゝSさんだと思付いた時、全く心の大きな水塊を解き得た春の和やかさを味はつた。うれしかつた！兎角記憶に鈍い勝の後輩の而も十年幾分面變りした此の顔を、よくまあ御忘れなくと感謝と嬉しさに涙さへ浮んで來た。

あの頃のSさんは故高橋老先生の室で根氣よく、生理解剖の調査を行はれてゐた。往々私と最後の暑中休暇の一ヶ月を高橋先生の御手傳で蛾の解剖をやつてゐた(調査は光線と産卵との關係で多分結果は綠色光線が蛾體の産卵数が最も少いと云ふ事になつて先生はバテントを取る)と喜んで居られたが、どうなつたか？

時であつた。(此の夏此處で多くの諸先輩に違つたが未知の人で而も深い印象に残つた人になほ長野の勝又さんがある)其の夏以來私は解剖には相當の自信が出來た。今でも誰にも負けぬと云ふ自信がある。解剖力を握らせれば稀代の名外科醫の心算……

こうした思出を綴り乍ら宴會の席に待つた。私は殊更愉快でならなかつた。正氣富める筑波、人よし、酒よし、肴よし、會は土曜から日曜へと足掛け二日、枯嵐に荒んだやうな頭を撫でながら赤ら童顔の中山會長から尺八で聞へた橋本、聖人タイプの本谷、農蠶上手の川島、校長間に評判のよいとかの昔坊チャンで通つた寺島、母校劍道隆興期の主將として濃厚篤實の譽れ高かりし原田、それに差しがりやの三瓶先生と丸で先生の御目見得ダマリ。其れに引換へお役人の少い事、だから十層倍の働きをせにやあ母校の名が光らないとか、船後技師から笠原、岡本、今日は見へない梶田君まで何れ劣らぬ働きの者。其のエネルギーの源を尋ねれば酒の飲めぬ奴には解らないとか。非常時とかで何れも無藝の酒家揃ひ。K君、O君に至つては全く其の極に達する無藝振りとは玉に瑕か？。大人唯一の至藝は鏝枯れた本調磯節とか。而し四季に開く水戸部會では未だ一度も誰も聴いた者なしと、秘藝と云はん。之にお上品で行儀のよいは結城御殿の大旦那柳原、坂口、村島君と佐瀬さん、飲み疲れても踊り疲れても膝一つ亂さず。最後はワザ／＼飲みみだけ來たと云ふ佐藤儀助少尉(昨今

有名なゴルフアーと同姓同名だ)優良蠶種は縣隨一本蠶種業のリーダー、小學校の養蠶實地指導に或は軍人分會長として其の肉聲音量のよきは今太閤を彷彿たらしむ。大西郷より丸味のある其の顔に輝や双瞳、一度國家を論ずれば口角熱し酒氣飛んで火を吐く、今宵の風貌筑波に鎮して正に關八洲の郷軍を一腕に收め得たる快心に酔ひしびれてゐる大將軍！

既述の面々飲む程に踊る程に果は席を忘れ或は湯殿に酒氣を流して飲み直すあり、階段にて腰砕け居眠るあり、夜の山を肴に飲まんと出るあり等々……何處にどうして寝込んだやら起されるまで知らざりし者半ばを越ゆ。其の甚だしきに至つては折角の寄書すら飲み失ひたるもあり。

(筑波名物ツクパネ 本文参照)



さて總會は第二日目、静間を破る小川のせーらぎ、河鹿の鳴く聲に紫匂ふ秋の夢より醒め起れば一望遙か何千里今正に黒潮に萌出でんとする旭光只崇巖の極みと云ふべきか。朝食の済む頃は雨上りの日曜を待望の紅葉狩する者一入増して山次第に賑はし。さて一同これは又餘りに

も急なケイブルを登り切ると其處に世界一の氣象台がある。男山、女山の界線を流れるは男女川。此處彼方に散在するツクバネの樺木、此のツクバネは枝の先端に大豆大の玉が出来これに四葉の躑躅の如き葉を附ける。女山に憩ふ頃タマ〜此の山に住みて三十年會て米食を取らずと云ふ山男に逢ふ。力較べを挑まれて船後先生恐る〜立上り乍ら大きくもない拳骨を瘦せ細りたる奇人の隣に中つれば一、二、三―空腹の奇人はトウテイ勝味なく遂に氏日本一の力持と稱揚されて苦笑。

アレコレのエピソードを残して明日の仕事に追はれてゐる各人の山頂の一時は雨露の一粟と何んの變りあらう。皆な思ひ〜に歸途に就く。急な山の下りは誠にシンド。麓近くなる程に紅葉のチラチラに蜜柑が色付き初めてゐる。勿論店先にも買つてゐるが皆んな枝付のまま。有名だと云ふは押指大の筑波蜜柑、福島の立花蜜柑と變らず。山を下り切つた所が北條町此處で互が西東に再會の夢を送つて別れたのが昨年の總會。

さて今年海か或は舟か等考へて見てはゐるが、これは又意外な季節外れの七月十餘日、處もあらうに養蠶で忙しい眞鍋の佐藤さんを本陣に、土浦堤に押出した。結城は急に社用とかで相見へず、水戸には病人突發したとか。集るもの茨城チベットの山奥から岡崎先生、寺島、川島、木谷先生、岡本、梶田、正副會長の中山船後先生と今日の座元の佐藤さん、少し遅れた私は只酒席に侍つたのみ。酒肴餘りあれど既に皆倒る。

希くば我等の會は酒氣を減じて大氣を買ひ遠く母校を忍ぶよすがの時間を企する事の頼母しけれ。(九月一日 中長)

千枚漫語

千葉 高 島 生

時代の新語を産む。『ナンテ間がいい』

「んてせう」と云ふ言葉の流行したのは二昔も前のこと、所謂スピード時代の近年に於ては、急テンゴで次から次へと新しい言葉が流行つてゆき、今ではデモクラシーを説く者なく、プロバガンダを口にする者も少い。非常時と云ふ言葉もソロ〜古めかしくなつた今日、さて新しく生れ出づる流行語は何んであらうか。

流行語は時代の歴史である。その言葉の起原又は流行した背景に就て考察する時、そこには明かに當時の政治、經濟、思想、風俗が語られて居る。試みに今私の頭に浮んだ近年の流行語と思はれるものを列挙してみやう。強ひてセンテンスに綴り込んだから、文意に無理のあるのはやむを得ない。

『何が彼女を、そうさせたか。モダンなトテンヤンの彼女は又イトに富みサード、満足であつたから、斷然彼氏を憎殺した。彼氏も亦相當なものであり、そのスマートでシックなスタイルに彼女もモチ好意が持てたので、萬事オーケーと云ふ譯。斯くてラン、デパートとなり、アベックでエロゴロ百パーセントのシネマにゆくことも度重なり、そのノボセ方はスゲエものであつた。』

『農村振興とは肥料の公平なる分配であると説いた田中首相の後に、世界的不景氣を口にした井上蔵相あり、大蔵首相は心算の變化を來して金の再禁をやり、鳩山文相はロボットに非ずして明鏡止水の心境で辭職した。』

『世界の客觀的情勢を認識して、日本精神を復興し、經濟の更生を圖り、赤字財政を克服して非常時を解消すべく國民に呼びかけるには、統制ある細胞組織的工作を必要とする。』

『冷害をはじめ、災害オンパレードの觀ありし昨年於て、ブルジョアとプロレ

タリアの抗争をみなかつたのは、農村の經濟機構を檢討し、之を改組してその合理化を圖るため善慮しやうと云ふ、即ち共存同榮のイデオロギーがインテリ階級をリードしたからである。斯くて地下の流行運動は跡を絶ち、明朗なる社會を禮讃するに至つた。』

『滿洲は我國の生命線であるから、之が赤化を防止し、匪賊の跳梁を許さないため、政黨凋落の秋、フアツシヨの波に乗つて我が國策を強化し、國內のインテリ青年や、餓死線上にあるルンペンを彼地に送つて武装移民とし、日滿共存をモットーとして日滿經濟、アロククの確立を圖らねばならぬ。』

『二十五周年祝賀の盛典は、實に今秋行事の豪華版である。我等は光輝ある母校の傳統を誇らねばならぬ。』

『私共の在學時代に修身を受持たれたのは、生徒監の新築金橋先生である。何んが宮城縣白石中學の校長をされて居た頃、その重厚な人格を文部督學官針塚氏に認められ、蠶專の創立と共に拔擢されて講師(後教授)になつたのだと云ふ噂であつた。ゴマ鹽の頸ヒゲを長く垂れ、何時もモーニングに山高帽を着けて居る風彩は、大學目録の廣告にある様な紳士、それで知らぬ人からは、よく校長先生を感嘆ひをされたものである。その新築先生の修身の講義がなか〜奇抜で、洋食の食ひ方から、燒香の仕方まで教へられると云ふ、凡そ實踐的なものであつた。』

『怒つた方が負けだと思へ』と云ふ言葉も流行語の一つであつた。之は校長先生が何かの機會に訓話された時、宮本武蔵が試合をするに當つて、相手を怒らせて奇勝を博した話をされたのが起りだと記憶する。この例話は當時の校友會雜誌に載せられ、それをみた蠶業新報が針塚校長はなか〜話せると言つてその徳を激賞したものだ。當時私共の間では相手の氣に障るやうなことをして置いて、さて『怒つた方が負けだと思へ』と言つては逃げると思ふ、ズイ分人を食つた事が流行した。併し學生間の罪のない冗談事の中に、師の教訓が實踐的に修練されて行つたと云ふ事は、今考へても嬉しいことである。

『元をとる』と云ふ言葉は私共のクラスの發明語である。併し誰が言ひ出したのか思ひ出せない。この語はアミダや冥會の時自分の出金額以上の飲食をすること『昨夜はスツカリ元をとつて了つた』と云へばその徹底振りが判ると云ふもの内氣な私ナンカいつも元をとられ通してあつた。元をとる―あまり品のいい言葉ぢやないが、書生語としては面白いではないか。今の學生間にもこの語が用ひられて居るかどうか。

『伸ばす』又之を英語で『エロンゲーション』と呼ぶことも私共の在學時代の流行語である。鼻の下を伸ばすの意で異性に心を惹かれることの隱語である。又同じ場合に『發展する』と云ふ言葉も用ひられた。『彼は近頃盛に發展して居る』とか『あまり伸ばすなよ』とか、『エロンゲーションに行かうか』など云ふ會話が交されたものだ。

ハイカラと云ふ言葉は明治時代に日本製の英語として最も通俗化したものであるが、之を働詞化したのは私共の學生時代である。即ちハイカラ振る、シヤレルと云ふ意味に『彼奴ハイカツテ居やがる』ナンテ盛に用ひたものである。序ながら大正七年神戸川崎造船所にストライキが起つて、そのサボタージュと云ふ戦法が行はれ、この語が初めて新聞紙上に見へた。當時兵庫縣に居た私は、九州地方に旅行して、旅先から友人に宛てた繪葉書に、繪葉書で文句をサボル旅便り』と書いて出した。之が恐らく我國に於て世の語學研究者の爲に特に書添て置く。

一部同窓生の間には『カラキダズム』と云ふ言葉があるが、之は芝君と私の合作で、圓々しい事、押し強い事を意味する。唐木田君怒つた方が負けです。『カラキダズム』とは千枚式と同義なり』と後世の辭書に載ることであらう。(一〇、八、三〇)

上田便り

七月中織物生産増加 上田織物同業組合七月中織物生産高は前月比三三・二二...

乾繭保管少なし 上小地方春繭の乾繭保管は上小繭生絲販賣聯合會が千六百五十貫...

上田の夏繭取引開始 信濃繭絲は八月二日、上田繭絲は同日より夏繭取引を開始した...

市警署場の移轉終る 昨年新築した許りの上田市南天神町裏市警署場は鐘紡工場の敷地となつた...

引市場を設置したが昨年は常田館其他が同市場で買込み上田へ運んだ数量は一万一千貫であつた。

スキー申込のトップ 讀賣新聞主催の「スキーを楽しむ會」は明年一月一日から五日間新鹿澤温泉で開催する事となり八月廿一日上田温泉へ管轄方申込んで来た...

菅平の滞在者 盛夏の菅平高原の滞在者は年々増加の一途を辿り本夏は多い時は五六百名の滞在客を見たがその内珍しい団体を示す次の如くである。

△虚弱児童の健康増進を計る縣菅平高原療養所は七月廿八日より八月二日迄五日間鐵道省山の家で開講され虚弱児童六十名が收容された。

△名古屋鐵道局では管内現業職員の体育向上の爲め新しい試みとして内務省から体育講師を聘し八月一日から一週間宛二班に分れ虚弱職員約八十名の夏季療養を菅平高原で行つた。

△文部省主催の全國体操指導者講習會は第一班一日から十日迄第二班十二日から廿五日迄開催、中小學校体操教師約七十名が菅平高原体育研究所に合宿体操の根本的指導を受けた。

△オリンピック出場体操選手三十餘名は十二日から廿五日迄菅平ホテルに滞在榮冠を目指して猛練習を行つた。

△法政ラックビー選手四十名は十五日より九月一日迄、又早大ラックビー選手八十名は二十日より九月三日迄滞在猛練習を行つた。

種綱羊四十二頭貸付け 上小地方から兼ねて申請中の種牝綱羊は左記組合宛四十二頭が九月一日頃貸付けられる事に決定したが淡洲産のコリデル種である。

此の屏風岩は長さ四百米、此の屏風岩をなす部分三百米、厚さ二一四米、最高部分十五米あり、岩種は複層石安山岩に屬し四阿中の一俵觀をなすもので火山學上、岩石學上の好資料となり名勝地とし又天然記念物として重視されるものである。

上田の聖蹟瀧水に保存碑 明治十一年明治天皇上田行幸の御供せられた御膳水の井戸が今回縣の指定で埋藏保存碑が建てられ永久に保存される事になつた。

井五周年記念に商工年鑑發行 上田商會議所では上田蠶絲專門學校創立廿五周年、北本州商會議所總會、眞田澁川間省管バス開通を記念する「上田商工年鑑」(表紙絹紙四六版五百頁)を九月下旬作製する事となつたが掲載要項は左の如くである。

△上田市街圖△會議所其他寫眞約二十枚△上田市沿革及案内△會議所沿革△上田市商工業概要△上田物産陳列概要△出品規定出品者名△上田市工場調査△商市場規約倉庫同業會規約△上田地方特約組合の概要△契約内容△商工人名錄△會社調△保險會社代理店調△自動車交通狀況汽電車交通狀況調△上田市諸市場△上田市發明者一覽△上田市官公署日刊新聞一覽△會議所議員市會議員所得調査委員各商組合及組合長△上田蠶絲專門學校概要△職員表△上田地方觀光案内と上田觀光協會規程△上田市みやげ品案内△全國商工會議所一覽

上小地方九月中行事 上田温泉關係の上小地方九月中行事は左の如くで参詣人遊客に對し乗車賃何れも二割乃至四割の割引がある。

△九月十五日―廿五日菅平猫岳附近廿露梅狩△二十日―三十日土合澁澤附近初芽狩△廿一日―廿七日別所北山向觀音彼岸參詣團△廿四日善光寺參詣團體募集△十六日長村山家神社祭典△十八日東鹽田村生島足島神社祭典

山紫水明の仙境高原のいで湯

今日のやうな錯雜した社會相と尖鋭化された刺戟の疲勞した私達に最も快適な慰安と悦樂とを與へるものは何んと云つても涼々として湧き出る温泉に身を浸してゆつくり心を落ちつける事でありませう。

眺望の餘蘊な...別所温泉へ

相染川の溪流を挾んで或は愛宕の山裾に点在する旅館十二軒。何れも山の温泉として自然に調和した趣きを備へて居ります。

電車バスで行くと 上田―別所温泉間 三十分 御乗車賃往復に限り金四十錢(二割七分引) 御宿泊料一泊二食付金一圓五十錢より...御中食金八十錢より。

東京方面よりの方は... 紅葉の和山峠へ廻遊引コースを撰ばるゝ事が良いと存じます。 中仙道六里の和山峠を省管バスで全山燃えるが如き紅葉を觀賞しながら下諏訪の温泉に出で更に一泊せらるゝ事は又格別であります。

東京市内各驛―上田(汽車)―別所温泉(一泊)―西丸子(電車)―和山峠(省管バス)―下諏訪(一泊)―發騷(汽車) 乗車賃六圓、通用期間八日間 俗化せぬ...山峽のいで湯

田澤温泉 海拔二〇〇餘尺冠冠山の山裾にあり東北方に上田市及佐久平原を下瞰し遙かに淺間山の噴煙を眺め風光雄大の別天地であります。

香掛温泉 保福寺峠...その峠の袂にある香掛温泉は交通の便利に恵まれ乍ら未だ俗化せぬ山峽の温泉場であります。街道から見た温泉場の形も良くうしろを繞つた山の高いのも良い。

田澤も香掛温泉も上田―青木間往復四十錢、青木より湯元迄往復二十錢(約三割引) 上田より約五十分にて到着致します。

旅館は何れも各四軒。御宿泊料一泊二食付金一圓五十錢より。

淺間山麓の高原に湧く...新鹿澤温泉 海拔五千尺の鳥居峠を越へれば其處には思ひがけぬ廣大な淺間山麓の緩かな傾斜を以て上州側に流るゝ大高原を見ます。新鹿澤温泉は此の高原の西隅に靜かに湧いて居ります。旅館は何れも二層以上の宏大な建物で四軒御宿泊料は一泊二食付金一圓五十錢より。交通は上田―眞田(電車)―鳥居峠―新鹿澤温泉(バス) 往復金一圓七十八錢。

東京方面よりの方は...淺間山麓廻りの割引乗車券を御購求になる事が御便利です。

廻遊コース...東京市内各驛―上田(汽車)―眞田(電車)―新鹿澤温泉―新鹿澤温泉口(バス)―輕井澤(草津)―發騷(汽車) 乗車賃金六圓三十錢 通用期間六日

上田市天神町(電話六五四・九六五) 上田温泉電軌株式會社

母校ニュース

校友會各部の夏季練習 校友會各部は例年の通り秋の對抗試合を目指して猛烈なる夏季練習を開始した。そのトップを切つた庭球部は八月十五日より末日迄本校コートにて、柔道部は高木六段を招聘してコーチを受け剣道部は廣川師範の指導に依り何れも八月廿五日より九月十日迄本校道場にて、又野球部は八月廿五日より九月十日迄市警球場にて、弓道部は本校弓場にて蹴球部は母校々庭にて何れも九月一日より十日迄である。

須江辨三郎氏(絲井回)榮轉 卒業後引續き母校製絲科に助手として勤務された同氏は今回東京府北多摩郡立川町東京府蒲検定所に榮轉せらるゝ事となり八月十八日赴任された。

井上教授等の後立山縦走 母校井上博士の登山趣味は有名なものであるが本年も茅野功、松浦彰義兩氏と共に八月廿三日から後立山連峯の針の木から鹿島館迄を三泊四日に亘り縦走して歸校した。又平尾孝平、池内眞吾兩氏と學生西川晋君は廿四日出發、燕、槍、上高地を三泊四日にて縦走した。(寫眞は鹿島館に於ける井上、松浦、茅野の三氏)



對東京高蠶庭球戰快勝

本校との定期庭球戦は八月三十日午後二時より本校コートに於て舉行した。庭球を一枚看板とする高蠶に對しては本校の勝味は薄く過去は十敗一勝と云ふじめな成績であつたが本年は夏季練習の賜物が本校選手のコンドション極めてよく中にも大將天野叶澤組の如きは殆んどストリートで勝つと云ふ様な勢で結局優退二組、不戦一組を残し歴史的の差を以つて快勝した。廿五周年の盛儀を前にして斯くの如き結果を得たるは心地よき限りではないか。戦績左の如くである。

Table with columns for school names and scores. Includes entries like 東京高蠶, 高野大野, 引地波野, etc.

劍道昇段發表 劍道部では八月三十日附を以つて左記の通り昇段を發表した。製絲科三年 上川 兼之 晋 西川 孝信 有雄 高木 林之 方雄 平林 孝信 方雄 右二段に進む。

蠶一養蠶實習終了 養蠶科一年三十六名の秋繭飼育實習は好成績にて八月卅一日無事終了した。佐藤(利)教授出張 佐藤利一教授は今日文部省視察委員を委嘱され九月四日より一週間縣下各地の實業中等學校を視察された。絲二乾繭實習 製絲科二年は九月六日から十一日迄六日間例年の如く秋期乾繭實習を行つた。二學期開始と養蠶家休暇 製絲及紡織科は九月一日より第二學期開始となり一入黒く元氣になつた諸氏の顔が見へ工場からは機械運轉の響が聞こえ始めた。それに代つて八月の寂寞の母校の孤壘を守つてゐた養蠶科は秋蠶を終へて九月一日から十日迄夏中休暇に入つた。十一日からは各科華々しく授業が開始せられる譯である。

「蠶絲學雜誌」豫告

豫てより募集中であつた母校廿五周年記念蠶絲學雜誌の應募論文は時節柄多忙の折にも拘らず意外の多數に上り、實は編輯子もその豫算の少きに對して、甚だ周章せざるを得ない体である。内容外觀共に記念號として恥しからしめざる様、期待と緊張を以て校正を進めてゐる。尙應募者諸氏に對しては紙上より深謝の意を表する次第である。

雜誌は千曲會員諸氏へは一部宛差上る事になるであらうが會員外の希望者にも御願したいと思ふ。始めから印刷部數に制限があるので餘裕が少いから希望者は、御豫約願へれば都合である。會員諸氏は本會の爲にその斡旋の勞をとつて頂ければ幸ひである。内容は左記の通り。

Table of contents for the journal, listing article titles and authors. Includes items like '桑葉の硬度に關する研究' by 岡部 康之, '蠶の白腫病菌の生態種に就て' by 門平 潤一郎, etc.

「蠶絲學雜誌」目次

Table of contents for the journal, listing article titles and authors. Includes items like '蠶の白腫病菌の生態種に就て' by 門平 潤一郎, '家蠶の回復機能に關する研究' by 岡部 康之, etc.

Table of contents for the journal, listing article titles and authors. Includes items like '家蠶の回復機能に關する研究' by 岡部 康之, '蠶の白腫病菌の生態種に就て' by 門平 潤一郎, etc.

「蠶絲學雜誌」目次

Table of contents for the journal, listing article titles and authors. Includes items like '蠶の白腫病菌の生態種に就て' by 門平 潤一郎, '家蠶の回復機能に關する研究' by 岡部 康之, etc.

Table of contents for the journal, listing article titles and authors. Includes items like '蠶の白腫病菌の生態種に就て' by 門平 潤一郎, '家蠶の回復機能に關する研究' by 岡部 康之, etc.

上田蠶絲專門學校同窓會報(大正四年一昭和二年)並に「蠶絲學雜誌」昭和三年一昭和十年)總目次(以上) 昭和十年九月十五日 記念蠶絲學雜誌編輯係



山陰千曲會だより

小野 正男

時報紙上で本會や支會のいつも絶えざる努力と發展振りを讀むにつけ山陰支會の振るはれないのを恥かしく思ふ。支會長とは名のみの忙しさに名を藉りて何んにも仕事をしない。然し、現在の筆者は貧乏に暇なく働かざるを得ないのである。それでも母校が今年二十五周年を迎へるのに我々も黙つてゐては申譯がないと云ふわけである七月會員各位に檄を飛ばして大いに氣勢を擧ぐべく交渉したら七名の賛同を得たのである。

七月二十七日土曜日午後二時から米子市の皆生温泉大山別館に集まる可く申し合せたのであるが當日になつてどうしようも出で来られない者が七名あつて午後四時迄に左記の方が集まつてくれた。  
田浦 準君 平塚芳太郎君  
鈴木鐵太郎君 堀田啓治君  
岸野 潤一君 石井 公男君  
坂口 良吉君 青木 禮積君  
小野 正男君 磯部 英一君

七名が急に缺席されたのは残念であつたが、それでも十名から集まることは山陰支會としては成績がよい方である。何分筆者は明日上京しなければならぬと言ふ忙しさであるから今日の會も五時半までと決めてかゝつたから充分話しをする事も出来ず急ぎの會であつた。

先づ會長の改選から始まつて極力田浦君を新會長として推薦申上げた處辭退し筆者も忙しいのと長い間の會長をやつて無能である事を理由として固辭したが一同仲々訊かない。結局此の無能の筆者が再選されてしまつた。次は廿五周年の件で母校の輝く歴史を喜び今秋には是非共祝典に参加したい旨を申合せ早速宴會に移つた。

宴會場は別席で一浴後のスガ／＼しい氣分もメートルが擧がるに従つて汗が湧いて来て『裸になれ』と筆者を皮切りに一同裸体になつて飲んだ。

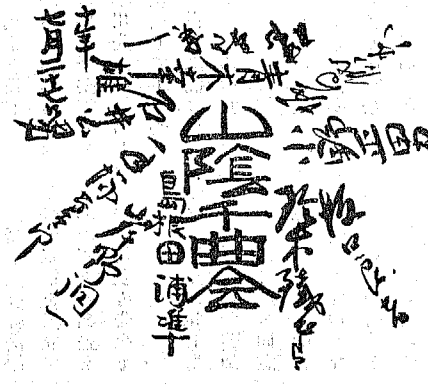
皆生温泉は島根半島に對して海から湧く温泉なので波の音を聞きながら牛飲するのであるから亦格別である。彼は格別に美しいのもないが山陰情緒として情艶な處がある。『關の五本松』『安木節』『出雲音頭』などはあまりに良く知られた俳諧である。

先年針塚先生を御案内して来た旅館はこの大山別館より二軒目で先生には懐しの温泉である。宴會もスピードでやれば一時間も経つと結構酔ひが廻つて来る。筆者は五時五十分の汽車に乗る可く時計と首引きでやつたがまだ三十分許り時間がある。随分スピードを早めたやうな方が相當廻つて来た。

田浦御大岸野家傑は人も許し自己も認めてゐるが仲々豪者である。若手の石井、青木、磯部の三君は何時の間にか膳部を寄集めクラス會だと言ひ乍ら妓を相手にやつてゐる。「もう時間だから歸る仕度をしよ」と言へば此れからだ。夜行列車まで飲むんだと言つて動かない。

鈴木鐵さんと僕だけ仕度をして先へ歸つた。後は若手組と老年組がやつてゐる事と思ひながら汽車に乗つたがそれも漸く間に合つた位だ。  
左に出席者の人物月且をして見た。  
△田浦君 熊本から榮轉、蘭檢定所長である。重役的のタイプで適所適任、甘いも辛いもよくわきまへてゐる豪者。  
△岸野君 風姿も外聞も考へない偉人、筆者と電車で一緒になつた時は先づ土木が耕地整理の親分型、現在は地方農林技師として悠々たるもの、山陰支會での酒豪である。  
△坂口君 山サの醤油と言へば山陰はるか京阪神にまで鳴り響いてゐる。製絲科出身の君が醬油屋の支配人、米子市での重要人物である。  
△平塚君 伯西社主任で寸暇もない活動家である。現在の伯西社は全く明朗そ

のものに將に更生し基礎も確定したと云ふ記事を毎日新聞で見ても喜んでゐる。△鈴木君 高知から今春榮轉して来たもの、着任早々家族全部が病魔に襲はれ同君も病後の面影があつたが何れも全快しきうである。喜んで呉れ給へ。  
△堀田君 伯西社を退いて自家經營、村長さん格である。電車で挨拶された時は村長さんだと思つた。郷里で農村青年の爲に活動してゐる事と聞いて喜んでゐる。  
△青木君 大山乾草場へ勤務、まだ獨身と言つてゐるが仲々若い者には見へないがツナリした落付を見せた處がある  
△石井君 片倉の勤務、是れも獨身だと思ふ。赴任當時は勝手が解らず瘦せてゐたが昨今は仲々如才なく働いてゐるらしい。眞面目な青年である。  
△磯部君 電話で呼び寄せたら五時が過ぎないと来られないと言つたが五時は閉會であると言つたら飛んで来た。小柄だが仲々賢い。  
△筆者 別段取り立て、云ふ事はないが体はだん／＼肥つて来るに反して〇〇はだん／＼瘦せて行く許りである。



第九回山形千曲會總會  
本會の動靜が聞ける時、會員の多く集れる時期、そして集り得る場所の三條件を満足せしむべきをモットーに山形千曲

會の動員計畫は七月中に既に立案せられて居た。時幸にして評議員原田兵衛殿(以下原田殿と略稱す)展覧券々御歸郷との報に接し願つたり叶つたり八月十七日を期し湯の街赤湯温泉に我等の集ひは催された。初秋蠶繭入荷時でもあり、出席通知者も少數なりしに如何にやと車中先賢諸賢と心配しつゝ會場に向つた。

幸ひなるかな、幸ひなるかな、ヤ、オ、ヨ、の挨拶も其處此處に集へるもの十八名、會員二十三名に對する八〇%の出席率、前例なき盛況、此の催しの如何に期待せられ、如何に時期に適したるか知られた。  
原田殿の御臨席を辱し三時半森支會長より開會の挨拶あり、引續いて協議事項に移り、昭和九年度會計報告、會則變更、役員改選の件、廿五周年記念事業の件、代議員選出の件、代議員提出問題、其他會員提出問題等感澤山な問題に時を費す事二時間半。  
原田殿よりは本會の動靜、各支會の動靜、廿五周年記念事業等明細に御風聲を承り、同窓一同が會して談ずるの感を一入深くした。時既に六時若手連中は既にアルコールに喋聲を奪はれ催促する事數度、萬事圓滿に議事進行懇親會に入る。湯の香漂ふ赤湯の街には宵闇が濃く、烏帽子橋の頂には紅燈淡く照るとき我等の酒席はいやが上にも盛會となつた。

在學當時より東北縣人會と九州縣人會とは酒量の點で横綱だつた。往年の貫録は練磨に依り物凄く飲む／＼食ふ／＼鯨飲馬喰とは此の事か。酒だ、酒だ！會計の某氏既に青くなり相當なものだなんて目を白黒、會計も何もあるものか、飲め／＼遅れ／＼だ。今夜一夜は極樂だ！  
先輩も後輩も君も我れも渾身一体、歌ふ、飲む、騒ぐ、踊る、奇聲を發するあり、演説するあり、興奮と興奮、感激と感激、一切の感情を白で摺合した

様な歡樂の世界、全くの亂舞。美妓の聲も猫の皮の音も天女の奏てる如くに我等の胸の中には他に絶對に求めんとして求め得ざる情緒濃やかなるものがあり、時移り夜更けて一角より『御國の爲にますらをが』の聲が起る。あの肅なる音律嚴なる調に互に感激の涙を流して我等は去りし昔の學園と學友を偲び失戀の處女の二度と還り來ぬ初戀の夢を追ふが如くに筆舌に盡し得ざる蠶專風情を高潮したのであつた。  
歡樂の世界にも時の制限は遂に來た。一人倒れ二人倒れて此の感情と此の意氣を胸にして明日の奮闘と明日の仕事につゝまじやかならん事を約し萬歳三唱裡に黒紫色のペールは降るされた。終りに本日滿場一致會長の御任務を御願ひした丸川一太郎氏には都合上止むを得ず御出席下さらざりし事を惜しむ。左に本日の出席者を示す。

- 原田 兵衛(蠶一) 森 千城(蠶一)  
今井 又藏(蠶一) 古山 宗八(蠶二選)  
小山田啓三(蠶六選) 林 十郎(蠶一)  
井上兵一(蠶五選) 前田 雅弘(蠶五選)  
齊藤 幸藏(蠶五選) 宮崎 秋雄(蠶五選)  
桐澤 富雄(蠶五選) 長谷川弘平(蠶七研)  
和田 敦(蠶十九) 小野寺克治(蠶十九)  
若林 榮(蠶十九) 小林 進(蠶二十)  
松崎 昇平(蠶二十) 齋藤 利雄(蠶廿一)  
(一〇、八、三〇 小野寺記)
- 會費領收** (八月廿一日) (現) 在  
昭和十年度通常會費納入者  
(〇)印は蠶絲學雜誌代共)  
○宮川繁治(蠶十三) 〇太田 元(蠶十八)  
飯島貞雄(紡一)
- 入會金納入者**  
完納者  
遠山正人(蠶二十) 半田義雄(蠶廿二)  
金五圓也 田口清一(蠶廿二)  
蠶絲學雜誌代納入者  
金參圓也 太田 元(蠶十八)  
金壹圓也 半田義雄(蠶廿二) 今村覺治(蠶廿二)



本會記事

本會日誌

八月八日 會館上棟式舉行
八月廿四日 青森縣下の水害に對し菅原
勇治氏へ見舞電報發す
八月廿九日 會館新築寄附の件許可せら
る
九月六日 理事會開會二十五周年祝賀準
備に就て協議す

第九回代議會並
第一回大會通知

拜啓初秋之候各位愈々御健勝之段
奉賀候陳者來る十月廿三日午後一
時より母校内千曲會館に於て第九
回代議員會並第一回大會開催可仕
候間御出席賜度此段御案内申上候
昭和十年九月十五日
上田蠶絲專門學校千曲會

工事中の壽像設置場所(上圖)
及千曲會館(下圖)



廿五周年記念事業

廿五周年記念學術講演會
講演集豫約募集

來る十月二十二日母校創立二十五周年
記念學術講演會は大畧左の如き内容を
以つて日本蠶絲學會及織維工業學會の
學術講演會として開催の旨に付可成多
數來臨相成様致度此段廣告候。

追而當日の講演速記は兩學會に於て
夫々會報に登載の旨なるも特に本會
の便宜を計り本會員の希望者には別
刷として實費配布可相成に付希望の
向は當日迄に豫約申込相成度申添候
(價格は未定なるも兩學會とも二十
錢位、申込の際は學會別明示の事)

題目及講師名
織維工業學會(午前九時一正午)
人造絹絲とコロイド化學 櫻田 一郎
京都帝大工學部教授
題未定 渡邊 周
東京工大講師
絹織物の製造に就て 飯野 知次
桐生高工講師
日本蠶絲學會(午後一時一午後五時)
飼育並に上簇條件と繭絲織度との關
係 水井壽一郎
長野縣蠶業試驗場長
動物纖維の構造に就て 吳 祐吉
大阪帝大工學部教授
蠶絲構造に關する最近の研究 小原龜太郎
名古屋高商教授
蠶絲教育の動向に就て 佐藤 寛次
東京帝大農學部教授
我國蠶絲業の現在と將來 針塚長太郎
上田蠶絲專門學校長

會員章發送

廿五周年記念事業記
念品として兼ね
て製作中の千曲會員
章は八月中旬出來に
付き九月十五日附を
以つて佩用注意書と
同封、外に代議員會
並大會通知同封千曲
會々員約千五百五十
氏に對し夫々發送申
上げた故本紙が手
元に届く頃には既に

全部到着済の事と思ふ。
本會員章は廿五周年祝賀式、代議員會、
支會總會其他本會々員關係諸會合には必
ず御佩用願ひ度い。
本會員章を紛失其他に依り新規請求せ
らるゝ向に對しては一個に付き金二十錢
也(送料共拂込まれ度い)。

第十六回贈出金申込者

- 五口 岸 益吉(銀七)
四口 三ヶ田良吉(銀七)
三口 宮前 邦雄(銀十二)
二口 寺島 雅彦(銀十三)
一口 南林 孝三(銀十三)
今吉 築朗(銀五)
沖 高治(銀二)追加分
宮尾 行雄(銀廿二)
黒岩 君雄(銀十四)
合計人員 九人
合計口數 二十三口
合計金額 壹百拾五圓也

故居相泰一氏
御遺族よりの禮狀

謹啓 時節初秋の候に候處御同窓生各
位には御健勝にて御變りも御座無く御慕
し被遊候由海に欣喜の至りに存じ上候。
就ては過日來は御可憐に一々過分なる
御香資御取留めの上書留郵便にてて感々
上早速佛前へ難有感謝罷在候依つ拜受の
傳官相願候候賑かし息息泰一も地下に於
て喜び居る事と推察致し居り候。先は不
取敢乍略儀紙上を以て御禮申上度如斯御
座候 敬具
昭和十年八月七日
野父 居 相 平兵衛
千曲會館中

弔慰金報告

故原亮敏氏弔慰金第三回
金貳圓也 唐澤 正平 千曲會安筑支會
金貳圓也 小牧 國造
右合計金九圓也
故沼田周造氏弔慰金第三回
金貳圓也 三浦 重雄
金貳圓也 岸 勝郎
金貳圓也 依田寛之助 吉田 隆雄
關 寛 宮城 良雄 北村孝次郎
安川 博
右合計金拾貳圓也
累計金貳拾九圓也

宮島はる様の追憶



懐しの友宮島はる様!あなたは何故逝
きましたか。小學校時代から格別睦みあつ
たあなたと妾とは卒業後も共に志を同じ
うして教職の道へと進みました。そして
三年間朝夕に連立つてこの千曲河畔を
専門學校に通ひました。雨の日も風の日
も挽みながら二人の仲も決して離れじと
語り合ひながら、楽しく愉快に通ひまし
た。其の時あなたはいつ私を妹の様に
よく可愛がつて下さつて随分我が儘の私
はあなたに非常な御厄介や御迷惑をお掛
けしましたにも拘らず本當に親切に面倒
を見て下さりました。大事な友達と
云ふより寧ろ一つの身体の二つの分身、
妾が宮島さんか宮島さんが妾が譯らぬ位
の仲でありました。學校を出てから宮島
さんは四國に妾は九州に夫々別れて任地
に赴きましたもの、二人の仲は元より離
れるわけはありませんでした。互に音信
を交しつゝ益々親しみの度を加へて居り
ましたのに、其上あの頑丈な御体格を
れこそ健康そのものといつたあの御元氣
が今俄かに亡くなられたなどどうして信
じられませう。八月一日妾は仔細あつて
郷里に休養して居りましたところ突然こ
の噂を耳にして一時は耳を疑ひました。
心臓の血も一時に逆流したかと感ぜられ
續いて嘘だと否定しました。然しどうし
ませう。噂は事實となつて現れました。
御家族や親戚の方々によつては是様の遺
骨は静々とあの長い千曲川の堤防を
運ばれて我家の前を通過致しました。最
早疑つては居られませんでした。否定しては居
られませんでした。全身の血管が一瞬にして悉
く凝縮したかと思はれて茫然自失致しま
した。御家族殊に御母上様、御姉上様の
御嘆きは誠に見る目も憐れの極みでした
が御無理もありません。天は何故これほ
ど無情なものでせう。まだうら若いはる
の壽命をこれほど早く奪つてしまつたの
ではあらねえと。そしていつも元氣で張
り切つて居らつたやいませ。御勤務の
間には時に或は困難な事や非常においや
の事なども澤山ありなつたらしい様
子でしたけれど妾共の前には一度もお見
せになつた事なく始終元氣と平氣のお世話
をお示して下さつた又よくお世話な
どもなさいまして皆々おなつて居り
ましたに。其他追憶の種はあれからあれ
と思ひ出せば思ひ出すほど尙亡きはる様
の事のみ偲ばれて止め度がありませぬ。
あゝしかし呼べど答へず叫べど返らぬ。
今は致し方ありません。はる様あまり
に果敢ないあなたを御一生で。ク
ラスの者や妾達は心からあなたを御冥福
を祈ります。さらば安らかに永遠の眠り
に就きませ。

會員動靜 (九月七日現在) 五十番順

お願ひ

昭和十年七月現在千曲會々員名簿は去る八月十五日に一齊に發送いたしましたから御落手の事と存じます。會員名簿に自宅まで登載する事となりまして非常な繁雑となりました。千曲時報には従前通り勤務先の変更した場合には登載し勤務先が変更した場合は自宅にだけ登載した場合は特別の御申込の無い限り紙面の都合で省略するかも知れません。豫め御含み置きを願ひます。

- 安島 義久(蠶 九) (勤)滋賀縣神崎郡五峯村、滋賀縣蠶業取締所能登川支所 (住)神崎郡五峯村佐野
伊藤 英一(蠶一七) (勤)米子市、日本製絲株式會社
磯部 英一(蠶一七) (勤)米子市、日本製絲株式會社
内山 吉哉(蠶一三) (改名)嘉高ト改名ス
梅澤 萬次郎(蠶一七) (勤)從前通り(住)那山市紫前三
榎本 健治(蠶一三) (勤)津市下野町、錦華毛織株式會社
小見 益男(蠶一六) (勤)桐生市織姫町、富士瓦葺紡績工場再生絲研究所
小川 茂(蠶一三) (勤)佐賀縣小城町西小路、片倉佐賀蠶製製造所(住)勤務先
大谷 保平(蠶一七) (勤)一宮市外馬引、愛知縣毛織物検査所一宮支所
木内 新一(蠶一四) (勤)横濱市中區太田町一ノ一八信成ビル内、木内商店
近藤 義信(蠶一三) (勤)岐阜市各務ヶ原、飛行機二聯隊材料廠整備隊第六内務班
木山 新一(蠶一四) (勤)岐阜市各務ヶ原、飛行機二聯隊材料廠整備隊第六内務班
小林 敏子(舊蠶一六) (勤)ナシ(住)小縣郡青木村殿戸
坂田 正賢(蠶一八) (勤)ナシ(住)山口縣那賀郡戸田村
佐藤 白土孫七郎(蠶一三) (勤)德島市外北島村、東邦人造織維株式會社
須江 辨三郎(蠶一〇) (勤)福岡縣蠶業取締所(住)福岡市外箱崎町工科大学前
征矢 克郎(蠶一三) (勤)東京府北多摩郡立川町、東京府南檢定所
中村 一喜(蠶一三) (勤)上伊那郡伊那町、警署
中村 壽惠男(蠶一三) (勤)津山市二宮、那津山工場
西村 盈保(蠶一〇) (勤)ナシ(住)大阪府三島郡高槻町芥川一里塚
根津 健(蠶一八) (勤)金澤市、石川縣生絲検査所
橋本 博(蠶一七) (勤)宇都宮市、宇都宮砲兵第二十聯隊
林 直助(蠶一〇) (勤)鹿兒島市原良町、薩摩製絲鹿兒島工場(住)勤務先社宅
平岡 英司(蠶一〇) (勤)ナシ(住)兵庫縣津名郡佐野町
本間 茂鏡(蠶一九) (勤)朝鮮全南康津郡廳(住)康津郡邑内官舎
宮下 京三(蠶一二) (勤)沼津市外大岡村、片倉沼津蠶製製造所
森 剛夫(蠶一二) (勤)埼玉縣豊岡町、丸庄製絲株式會社豊岡工場
横田 三平(蠶一四) (勤)下高井郡中野町、丸高組製絲場(住)從前通り
昭和十年七月現在千曲會々員名簿訂正
金子 英雄(現職) (全)雇員ハ教授ノ誤
池内 眞吾(蠶一九) (池田ハ池内ノ誤
服部 令吉(蠶廿二) (索引中脱漏ニ付キ波多野千里ノ次ニ加フ
今井 衷(蠶一四) (袁ハ衷ノ誤
落合 義郎(蠶一四) (河越郡ハ安濃郡ノ誤
菅野 恒(蠶二〇) (印ヲ付ケル
菅野 喜通(蠶一〇) (印ヲ付ケル
北原 基(蠶一八) (勤)金澤市長町川岸、金澤輸出絹織物検査所(住)金澤市彌生町一七ノ一

- 小林 運美(蠶一六) (小株ハ小林ノ誤
河野 辨太郎(蠶二二) (勤)愛媛縣檢定所ハ愛媛縣檢定所ノ誤
高橋 利元(蠶二〇) (大莊村ハ六莊村ノ誤
都 眞華(蠶二〇) (印ヲ付ケル
西川 梅次郎(蠶一七) (本籍ヲ滋賀縣トス
華岡 忠平(蠶一〇) (勤)德島縣三好郡池田町、三好郡製絲株式會社
林 貞三(蠶一三) (勤)蠶絲科ハ製絲科ノ誤
長谷川 弘平(蠶一八) (印ヲ付ケル
丸山 力藏(蠶一一) (日本絹染ハ日本絹網ノ誤
宮本 豊彦(蠶一五) (支會別中蠶一四トアルハ蠶一五ノ誤
宮城 久子(蠶一三) (宮坂ハ宮城ノ誤
南澤 清(蠶一三) (勤)從前通り(住)東京市杉並區西荻町三ノ九六三(町名改稱)
山本 賢市(蠶一八) (勤)神戸市林田區吉田町一丁目、鐘紡理化學研究所
山形 新太郎(蠶一二) (印ヲ付ケル
出穂 登(蠶一七) (勤)滋賀縣神崎郡駐在、滋賀縣蠶業取締所(住)神崎郡北五個莊村大字宮莊
左記諸氏宛の八月號千曲時報返展せり。御存知の方は御通知を乞ふ。
布施 太(舊蠶一〇) (勤)長岡市宮原町、綿久製絲場 行先不明
佐藤 重太郎(蠶九) (勤)宮崎縣昭和産業日向支店 宛名不完全
石川 博見(舊職) (勤)滿洲國新京城内長春縣公署 ナシ
依田 實(蠶二〇) (住)東京市荏原區小山町五四清水佐一方 ナシ

叙任辭令

- 母校之部
昭和十年八月十二日
從四位勳四等 井上 柳 梧
敘勳三等授瑞寶章
昭和十年八月十七日
製絲科副手 須江 辨三郎
職員之部
昭和十年八月十二日
從四位勳五等 勝木 喜 董
敘勳四等授瑞寶章
卒業生之部
昭和十年八月一日
公立實業學校教諭 浦山 藤 吉
陸シテ高等官五等ヲ以テ待遇セララル
同 古東 幹 太
陸シテ高等官六等ヲ以テ待遇セララル
從六位 森 千 城
從六位 沖 堀 變
從六位 沖 瀧 治
敘正六位
正七位 竹内 五之助
從六位 地方農林技師 寺島 親 雄
昭和十年八月八日
八級俸下賜
公立實業學校教諭 橋 本 廣
昭和十年八月十三日
八級俸當分千參百貳拾圓下賜
公立實業學校教諭 岩 本 市 郎
昭和十年八月十八日
七級俸當分千五百六拾圓下賜
公立實業學校教諭 岩 本 市 郎
加俸年額七拾貳圓下賜
公立實業學校教諭 坂 田 正 賢
昭和十年八月三十日
公立實業學校教諭 坂 田 正 賢
陸シテ高等官六等ヲ以テ待遇セララル
公立實業學校教諭 坂 田 正 賢
願ニ依リ本職ヲ免ス
同 飯島 正 胤
陸シテ高等官五等ヲ以テ待遇セララル
同 深谷 正 一
陸シテ高等官六等ヲ以テ待遇セララル

編輯室より

争はれないものだ。九月と云ふ聲が聞えりと急に原稿が殺到して来た。矢張燈下親しむの秋とそして漸く寸暇が割ける時期となつたせいであらう。處が母校にとぐるを巻いてゐる我々は九月の聲と共に廿五周年祝賀の準備でそれこそ轉手古舞の急しきになつて来た。毎日燈下親しむをよぎなくされてゐる。のみならず益々多忙になるかも知れぬと云ふ強迫感で神經衰弱になりそうである。
◇麻生先生外二氏の原稿はその性質上來月發行の懷古號に載せる事とし本月號には載せなかつた。例の千枚氏及YK生の原稿も懷古號の句がせぬでもなかつたが多少の點があり又お二人共書きまくる事は商賣人なので懷古號にはより厚しき御寄稿のある事を期待し致て本月號に登載した。

拜啓 初秋之候貴下益々御多祥之段慶賀の至りに奉存候
陳者小生儀上田蠶絲專門學校在職中は公私共多大の御懇情を辱ふし誠に有難く厚く御禮申上候、今般一身上の都合に依り東京府北多摩郡立川町東京府南檢定所へ轉任致す事相成候間今後何卒倍舊の御指導御鞭撻の程奉懇願候、先は不取敢以紙上御禮旁々御挨拶申上度如斯御座候 敬具
昭和十年八月十七日 須江 辨三郎
拜啓 初秋之候愈々御健勝之段奉賀候
陳者小生儀本年母校養蠶科を卒業仕候處今回愛知縣蠶業試驗場豊川支場へ榮轉せられたる塚本優氏の後任として幸ひにも母校養蠶科生理學教室に副手として勤務致す光榮に浴し候間今後何卒格別の御指導御鞭撻賜度奉懇願候、先は不取敢以紙上御挨拶旁々御願迄申上度如斯御座候 敬具
昭和十年九月十五日 鑑塚 好作